

## エスハイ社レ・ロンソン社長ご講演「ベトナムからの実習生受入れの実際」

ベトナムは東亜アジアに位置しています。一千年の間中国に支配されていた歴史もあり、ベトナムはもともと漢字圏で、日本語とベトナム語は似た発音が多くあります。(注意、意見等)その他、日本とベトナムは多くの共通した文化を持っています。例えば、農耕、米食文化。米を主食とし茶碗、はしを用います。

また、漢字文化、中国文化圏ながら中国からは独立した異なる精神を持ち、南北に長い地形から言葉・文化・気質には多少の差異はありますが、礼儀を尊び、年上を敬い尊敬する儒教を重んじます。

1986年にドイモイ政策が始まり、1990年代に入ってから欧米系外資企業の進出により、いわゆる「会社」「会社組織」が誕生しました。それまでは国営企業か個人商店のみで国民の8割以上は農業を営んでおりました。しかし、農業での生活は苦しく、金銭的には裕福ではありません。私が子供の頃は、食べ物は100%政府からの支給で、一日パン半分で過ごしました。現在、ベトナムの会社数は約40万社、日本の400万社と比べると労働人口は多いのに働き口が少なく、実践の経験を積めるところが少ないのが現状です。

ベトナム人は先進国入りを目指していた日本の昭和30~40年代によく似た価値観を持っており、「明日は必ず今日より良くなっている」と実感できるゆえの希望とハングリー精神を持ち合わせております。また、一所懸命働くことで家族に貢献したいという気持ちが強い若者が多いです。よくベトナム人は「戦争で中国に勝ち、フランスを追い出し、アメリカにも負けなかった」ため自我が強い人が多いと思われがちですが、実際は人との対立を望まず、現在、日本にいる実習生も他国の実習生ともトラブルはなく、企業側への要求によるトラブルもほとんどありません。

また、ベトナム人はベトナム刺繍で代表されるように手先が器用です。勤勉で真面目、コツコツとした作業が得意なので、日本のきめ細かい作業に向いています。

次にベトナムでの賃金と休日ですが、現在、製造業・一般工では月給148ドル(約16千円)。年間祝日日数も11日ですので東南アジア各国と比べても高くない労働コストで、彼らは休みが少なくても働くことは苦になりません。

さて、今、ベトナムの若者が求めていることは、海外で仕事をして経験を積みたいということ。家族のために家計を助けたい、帰国後、将来の自分のために技術を身につけたいというのが理由ですが、では彼らが一番行きたい国はどこでしょう？

海外を目指すベトナム人材が最も行きたい国は日本です。理由は日本に対しては歴史的にも親近感があり近い文化であること。ベトナム人はほぼ反日感情はなく、むしろ親日家がとても多いです。また、日本は技術・品質・職務意識面で世界トップレベルの先進国ですので、将来のために技術や仕事の進め方などを学びたいという若者が多く、ベトナム国内外資企業の中でも日本企業は大変人気があります。

現在、ベトナムの若者が日本で長期滞在できる方法は3つあります。

ひとつは、就労ビザを取得して日本で就職すること。しかし大卒以上であることが大きなハードルになっています。二つ目は留学生としてですが、入学費用・滞在中の生活費など経済的支援が必要となります。最後に技能実習生ですが、日本で働きながら仕事を学べるという理由で大変人気です。近年では、大卒者でも技能実習生を選択する人が増えています。

2014年の日本での技能実習生入国者数の第一位は中国で45千人、第2位はベトナム20千人で上昇傾向にあります。2013年の10千人から倍増、2015年も30千人に届く勢いです。ここでわが社の社名の由来をお話しますとエスハイのエスは日本もベトナムも地形が南北に長くアルファベットのSの形に似ていること。ハイはベトナム語で数字の2です。二つのエつまり日本とベトナムを指しております。このことからわかるようにわが社は日本とベトナム2国間のみで事業を行っております。

実際の東亜総研とエスハイ社によるベトナム人材の送出しについて説明します。

エスハイ社ではベトナム出国前に日本語、マナー・マインド、キャリアプランに1年間を費やし教育しております。

募集依頼があってから面接者を募集するのではなく、教育部門であるKAIZEN吉田スクールで既に勉強中の1200名の生徒の中から面接希望者を募るという点が他の送出し機関との大きな違いです。

エスハイ社を通じて日本入国した実習生の日本語レベルは高く、昨年のJITCO主催の外国人技能実習生・研修生日本語作文コンクールの入賞者は28名中4名がKAIZEN吉田スクールの卒業生でした。

また、3年間の実習を終え帰国後もレベルアップ学習を経てベトナムでの再就職をサポートしております。

今後、若くやる気あふれるベトナムの人材が実習生として一人でも多くすばらしい日本企業様に就職できることを心から願っておりますとともに、当校卒業生が日本企業様に大きく貢献することができますよう、今後とも全力で教育を行ってまいります。